

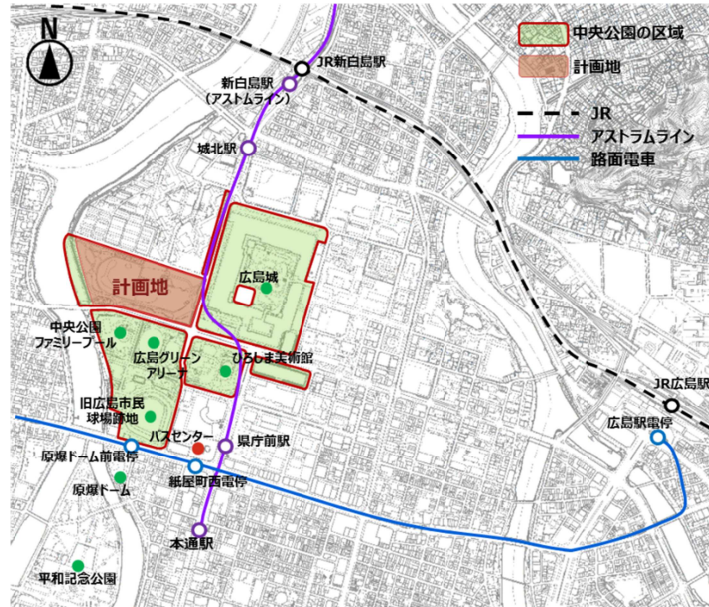
中央公園サッカースタジアム（仮称）基本計画 ～概要版～

1. 基本計画の位置づけ

これまでの経緯、サッカースタジアム整備の必要性及び「サッカースタジアム建設の基本方針」を踏まえ、サッカースタジアム建設及び中央公園広場の再整備の整備方針とともに、整備計画及び管理運営に係る基本的な条件を定めるもの。

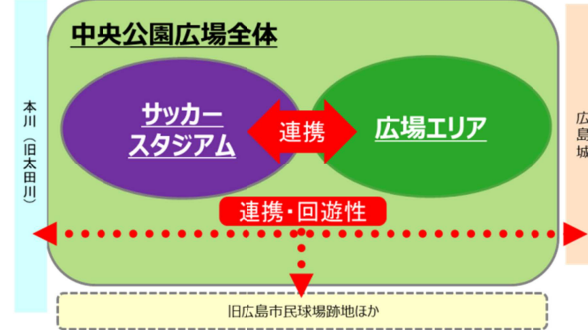
2. 計画地の概要

【計画地の位置図】



所在地	広島県広島市中区基町 15 中央公園広場(都市公園区域内)
用途地域	第二種住居地域 (建ぺい率 60%、容積率 200%)
敷地面積	約 85,600 m ²
アクセス	・JR「新白鳥駅」下車、徒歩約 15 分 ・広島電鉄「紙屋町西電停」下車、徒歩約 10 分 ・アストラムライン「城北駅」「県庁前駅」下車、徒歩約 10 分

【整備エリアのイメージ図】



3. 整備の基本的な考え方

「街なかスタジアム」の実現

- 中央公園全体の空間づくりや紙屋町・八丁堀地区のにぎわい創出及び回遊性の向上などまちづくりの視点をもって整備する。
- 全国に稀に見る都心に立地する「街なかスタジアム」という特性をいかし、サッカースタジアムの多目的化と多機能化及び広場エリアの複合化による年中にぎわいのあるサッカースタジアムを実現する。

みんなで作るサッカースタジアムの実現

- 県民・市民だけでなく、日本中に存在するサンフレッチェ広島サポーター、さらには様々な分野の方々から幅広く意見を聴く。
- 地元企業や県民・市民等の個人から幅広く寄附を募ることにより、サッカースタジアム建設の気運の醸成を図る。

広島らしさの発信

- 中央公園の緑と太田川の水という広島ならではの水と緑豊かな空間をいかした魅力あるにぎわいと憩いの空間を創出する。
- サッカーを通じた国際交流だけでなく、平和や広島のスポーツの歴史などについても世界中へ発信できるような施設を目指す。

4. 整備方針

■中央公園広場全体の目指す姿(ビジョン)

～みんなが集まる“わくわく”スタジアムパーク～

- ▶ 平和のまちを象徴し、開かれ、公園と一体となったスタジアムパーク
- ▶ 多くの市民・県民に親しまれ、多世代が楽しめる多目的スタジアムパーク
- ▶ 世界中の人々が訪れ、広島の魅力を発信するスタジアムパーク

■サッカースタジアムの目標像(コンセプト)

世界に誇れるサッカースタジアム機能を核とし、多目的かつ多機能化した都心交流型スタジアム

■広場エリアの目標像(コンセプト)

子供から大人まで多様な利用者が年間を通じて集い、交流できる拠点性の高い空間

5. 交通計画

基本方針

歩行者

- 歩行者の集中する試合終了後に円滑に通行可能な歩道幅員を確保する。
- 生活交通、周辺環境に配慮したアクセスルートを設定する

自転車

- サッカースタジアム敷地等に必要なた数が確保できるような駐輪場の配置を検討するなど、自転車利用環境を整える

公共交通

- 既存公共交通との連携による、臨時便の運行等、円滑な輸送サービスの実現を目指す

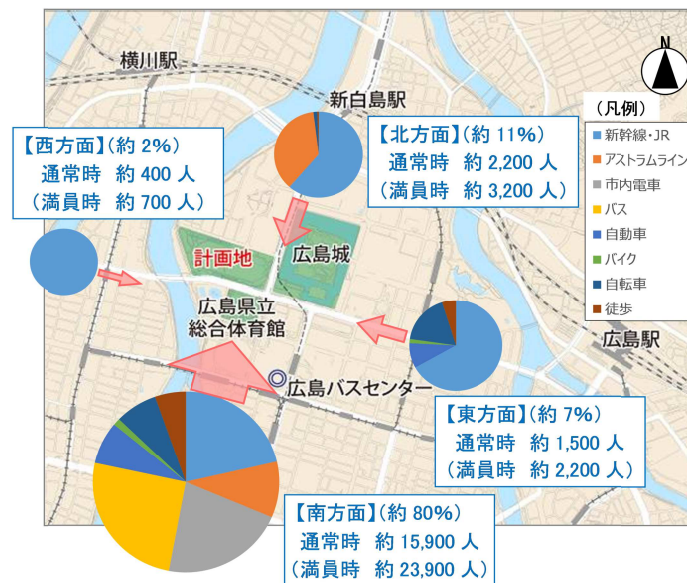
自動車

- 試合開催日には、来場者用駐車場は設けず、自家用車の利用抑制と公共交通利用の促進を呼びかける

歩行者の交通計画

- 北側からの主要アクセスルートは広島城の西側園路、南側からの主要アクセスルートはファミリープール東側の園路とする。
- ペデストリアンデッキを設置することとし、自動車交通と交錯しない安全で快適なアクセスルートを整備する(南側：ファミリープール東側の園路付近、東側：三の丸の噴水付近)。

【交通需要予測】



【歩行者の主要アクセスルート】



6. 施設整備計画

サッカースタジアムの配置計画

- スタジアム標準で求められている南北方向を基本とし、敷地形状を考慮した向きとする。
- 中央公園の回遊性、歩行者の交通処理、地下埋設物への影響等において西側配置に優位性があることから、サッカースタジアムを中央公園広場の西側に配置する。

中央公園の回遊性	東側を広場とすることにより、平和記念公園～原爆ドーム～旧広島市民球場跡地～広島城の回遊ルートの形成が容易 また、サッカースタジアムを西側に配置することで、隣接する基町環境護岸との往来も想定でき、新たな回遊ルートの形成が可能
歩行者の交通処理	東側の地下道からスタジアムを離すことにより、南側アクセスルートへの歩行者誘導が容易となり、幅員が狭い地下道への歩行者の流入の抑制が可能
地下埋設物への影響	西側には近世武家屋敷跡はあるものの、東側にある広島城西の出丸などのような歴史的価値が高い遺構が発見される可能性が低い。 また、西側配置の場合、水道・下水道等の地下埋設物への影響がない。



6. 施設整備計画（前頁からの続き）

サッカースタジアムの整備計画

プロサッカー、国際試合などのほか、サッカー以外のスポーツやスタンド下等の空間を活用など、多様な利用ができる計画

◆主な建築計画等（整備イメージの一例）

<観客席> 収容人数3万人規模

- ・臨場感、躍動感、一体感を感じる観戦環境
- ・障害者に配慮した観戦環境 等



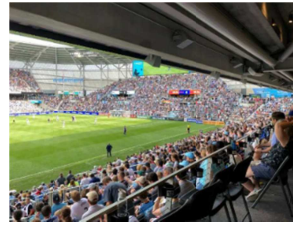
ゼロタッチの観客席(イングランド)



センサリアルーム(イングランド)

<コンコース>

- ・混雑時にも安全な幅員
- ・ピッチへの視線を確保 等



ピッチへの視界が確保されたコンコース(アメリカ)

<ラウンジ (VIP など)>

- ・ホスピタリティの向上
- ・会議室などにも利用可能 等



高級感のあるVIPラウンジ(イングランド)

<周辺環境>

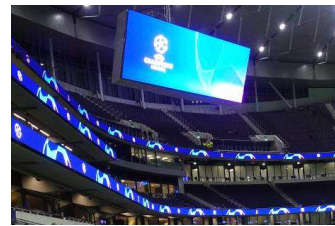
- ・スタジアムからの音や光漏れを低減 等



遮音性の高い扉(ノエピアスタジアム神戸)

<映像装置>

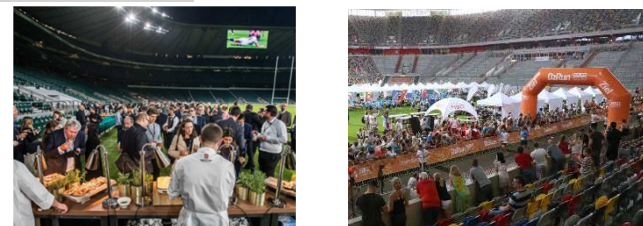
- ・大型映像装置、サイネージ、帯状映像装置等を設置 等



大型映像装置と帯状映像装置(イングランド)

◆多様な利用

<多目的利用> 導入イメージ



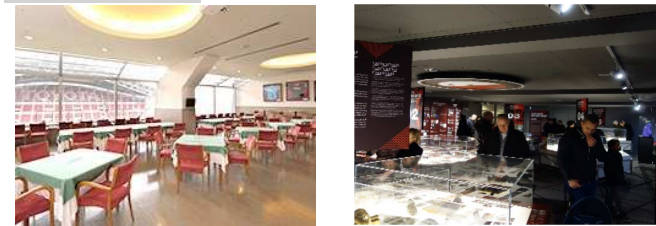
ピッチでのウェディング(イングランド) ピッチでのイベント(ドイツ)

目標	導入機能	機能イメージ	具体例
<多目的化> 多様なスポーツイベントを楽しめるスタジアム	多様な競技、イベント等を開催し、年間を通じて幅広い創出に寄与できる機能	スポーツ イベント	様々なスポーツ観戦やイベントが開催できる機能 サッカー以外のスポーツ利用 スポーツイベント コンサート/フェス パブリックビューイング/フードフェス ピッチを使ったイベント
<多機能化> 幅広い世代の県民・市民等が楽しめるスタジアム	幅広い世代が日常的に集い、賑わいやコミュニティが創出される機能	スポーツ 健康 飲食・物販 コミュニティ	広島のスポーツの歴史を学び、レガシーを共有できる機能 次世代のスポーツを楽しめる機能 幅広い世代が健康増進を図れる機能 幅広い世代が遊ばれつづける機能 カフェ・レストランなどの飲食・物販機能 幅広い世代が集い学べる機能 国際会議やビジネスなどに活用できるコンベンション機能

<防災施設>

災害時の避難場所や帰宅困難者の受け入れ等にも対応

<多機能利用> 導入イメージ



スタジアム内のレストラン(豊田スタジアム) ミュージアム(オランダ)

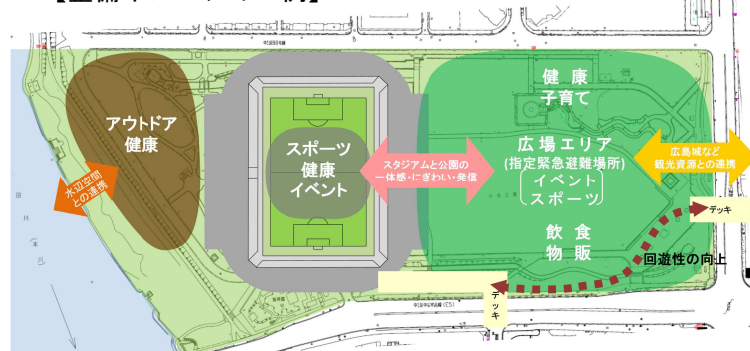
目標	導入機能	機能イメージ	具体例
<多機能化> 幅広い世代の県民・市民等が楽しめるスタジアム	幅広い世代が日常的に集い、賑わいやコミュニティが創出される機能	スポーツ 健康 飲食・物販 コミュニティ	広島のスポーツの歴史を学び、レガシーを共有できる機能 次世代のスポーツを楽しめる機能 幅広い世代が健康増進を図れる機能 幅広い世代が遊ばれつづける機能 カフェ・レストランなどの飲食・物販機能 幅広い世代が集い学べる機能 国際会議やビジネスなどに活用できるコンベンション機能

広場エリアの整備計画

サッカースタジアムの整備と連携を図るとともに、回遊性の向上、にぎわい機能の導入、水辺空間と一体となったにぎわいの創出、広場機能、防災機能の維持、周辺住民への配慮を整備方針とする。

なお、下図イメージにとらわれず、参画の可能性のある民間事業者の意見も取り入れながら、効果的な整備内容を検討。

【整備イメージの一例】



【導入機能イメージ】

目標	導入機能	機能イメージ	具体例
<多機能化> 幅広い世代が日常的に集い、賑わいやコミュニティが創出される機能	幅広い世代が日常的に集い、賑わいやコミュニティが創出される機能	スポーツ 健康 子育て 飲食・物販 アウトドア イベント	幅広い世代が健康増進を図れる機能 幅広い世代が遊ばれつづける機能 子育てで家庭が集い楽しめる機能 カフェ・レストランなどの飲食・物販機能 自然と食を楽しむ機能 食や文化を楽しむイベントが開催できる機能

7. 整備手法

基本的な考え方

にぎわいの効果を最大限に発揮する観点から、サッカースタジアムと広場エリアを一体的に整備する。旧広島市民球場跡地及び広島城三の丸の整備検討など中央公園の他の事業と連携・調整を図るとともに、民間事業者との対話を十分に行う。

・サッカースタジアム

早期の供用開始を可能とし、性能発注により民間のノウハウ活用と効率的整備が両立できる設計・施工が一体となった「DB(デザイン・ビルド)方式」を基本とする。

・広場エリア

Park-PFI等民間事業者による整備・管理手法を活用することにより、公共の財政負担を軽減しつつ、公園利用者の利便性向上を図る。

概算事業費

当初約190億円(消費税抜き)と試算、これに建設事業者へのヒアリング結果等を考慮。

(概算事業費) 約230億円~270億円(消費税込み)

(整備内容) サッカースタジアム建設、公園再整備、ペDESTリアンデッキ整備、埋蔵文化財発掘調査 等

今後、事業費を精査し、コスト縮減に努める。

資金調達手法

幅広く民間企業や個人から寄附金を募る。また、企業版ふるさと納税制度の活用についても検討する。国の交付金の最大限の活用や使用料収入等を償還財源とする市債の発行などにより資金の確保を図るとともに、広島市及び広島県が協力してその他の資金確保にも努める。

8. 管理・運営手法

管理・運営手法

以下の手法により、安定的・継続的な管理・運営を行う。

・サッカースタジアム

民間事業者のノウハウ等が活用できる指定管理者制度を採用することを基本。多機能利用に係る施設も、民間事業者に管理及び運営を委ねることで収益化を図る。

・広場エリア

Park-PFI等の民間事業者による管理・運営手法を活用。

・サッカースタジアムと広場エリアの連携的管理・運営

サッカースタジアムの管理・運営者、広場エリアの管理・運営者に加え、周辺施設の管理・運営者、公園管理者である広島市など関係者によって構成される協議会を設置し、定期的な協議を行いながら一体的な運営に努める。

収支計画の基本的な考え方

以下の基本的な考え方の下、収支計画は設計・施工の発注準備における民間事業者のヒアリング結果等を踏まえた詳細な試算を基に作成する。

・サッカースタジアム

多目的利用による稼働率の向上、広告の掲示、試合やイベントの開催と連動した店舗の設置、多機能化施設の設置等による目的外使用料の収益を上げることにより、施設全体として黒字化を図る。

・広場エリア

Park-PFI等の民間事業者による整備・管理を行うことで、公園全体の維持管理に必要な財政負担の軽減を図るとともに、サッカースタジアムと一体として機能し、相乗効果を生み出すことで収益性向上を図り黒字化を目指す。

9. 事業スケジュール

以下のスケジュールで事業を推進し、令和6年(2024年)の開業を目指す

令和元年度(2019年度)

: 基本計画の策定

令和2年度(2020年度)

: 設計・施工の発注準備、事業者選定

令和2年度(2020年度)~令和5年度(2023年度)

: 基本・実施設計、建設工事、開業準備